

取調べの可視化実現 を目指して

甲山事件から密室取調べと
えん罪のメカニズムを考える

参加
無料
[定員300名]

日時・会場

平成
24年

5.12(土)

午後1時30分～午後4時30分

山陽新聞社本社ビル1階
さん太ホール

〒700-0904 岡山市北区柳町2-1-1

Program

■第1部 対談

「甲山事件にみる密室取調べと
えん罪のメカニズム」

パネリスト 山田悦子、上野 勝

コーディネーター 作花知志(弁護士・岡山弁護士会)

■第2部 シンポジウム

「取調べの可視化～なぜ必要か」

パネリスト 安原 浩、小坂井 久、浜田寿美男
山田悦子、上野 勝

コーディネーター 近藤 剛(弁護士・岡山弁護士会)

パネリスト プロフィール

やまだ えつこ
山田悦子氏
甲山事件えん罪被害者・元保育士

1951年、富山県生れ。1972年、甲山学園職員として採用。1974年4月7日の誤認逮捕に始まり、1999年9月29日に3度目の無罪判決を得て、翌月8日の検察の上告放棄で無罪が確定するまで、第1次の逮捕を受けた1974年からかぞえて25年にも及んだ。この長期間、被疑者と被告人の地位に置かれた。現在、この過酷な体験を通じ、裁判と法のあり方を考える。主要著作に、「無答責と答責」(寿丘章子・祖父江孝男編、お茶の水書房、1995年)がある。

うえの まさる
上野 勝氏
弁護士・甲山事件弁護士

1974年、弁護士登録(大阪弁護士会所属)。2008年度元大阪弁護士会会長・日本弁護士連合会副会長。甲山事件弁護団で弁護人をつとめ、1999年10月8日の無罪確定まで、山田悦子氏を支援し続けた。甲山事件の弁護活動について、2008年6月、現代人文社より、山田悦子氏との共同編著で「甲山事件えん罪のつくり方」を公刊。その他主要著作に、「憲法的刑事手続」(共著、日本評論社)、論文「刑事司法制度改革とこれからの闘い―大阪の実践を踏まえて」(日本評論社『司法改革の最前線』、2002年)がある。

やすはら ひろし
安原 浩氏
弁護士・元広島高等裁判所岡山支部長

2008年退官後弁護士登録(兵庫県弁護士会)、裁判官当時主として刑事裁判を担当、全国初の検察審査会強制起訴事件である明石歩道橋圧死事件では検察官役として取調べを担当。最近の著作として『えん罪の原因を探る』(日本評論社『日本国憲法と裁判官』2010年刊所収)がある。

こさかい ひさし
小坂井 久氏
弁護士・日本弁護士連合会取調べの可視化実現本部副本部長

1981年、弁護士登録(大阪弁護士会所属)。大阪弁護士会刑事弁護委員会委員長などを経て、現職。早くから、取調べの可視化(取調べの全過程の録画・録音)の必要性を訴えてきた。2011年6月から審議を開始した法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」の幹事。主な著書に「取調べ可視化論の現在」(2009年現代人文社刊)、「取調べの可視化―密室への挑戦―イギリスの取調べ録音・録画に学ぶ」(2004年成文堂刊)(共編著)など。

はまだ すみお
浜田寿美男氏
奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授・甲山事件特別弁護人

1947年、香川県生れ。発達心理学・子ども学を専門として研究してきたが、甲山事件の特別弁護人を務めたことをきっかけに、以来多くの刑事裁判にかかわり、自白や目撃供述を鑑定する仕事を数多く行ってきた。鑑定を行った主な事件には狭山事件、野田事件、自民党本部放火事件、袴田事件、富山事件、東住吉事件、名張毒ぶどう酒事件、日野町事件などがある。主な著書に『証言台の子どもたち』(日本評論社)、『自白の心理学』(岩波書店)、『自白の研究』(北大路書房)などがある。